

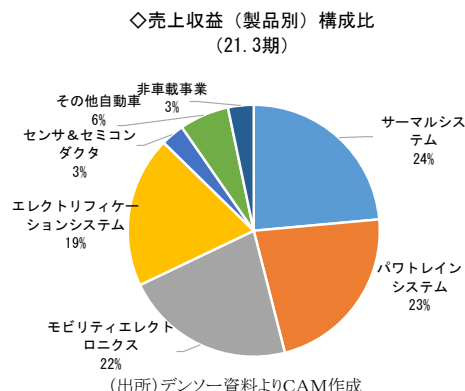
企業ニュース デンソー

(東証1部 : 6902) <https://www.denso.com/jp/>

作成者: 奥村義弘

自動車の電動化時代をリードする

1949年設立。パワトレイン、熱機器、電子、情報通信機器など幅広い製品分野を展開する自動車部品メーカー。xEV（電動車両）やADAS（高度運転支援システム）の普及で、インバータ、バッテリーECU（電子制御装置）、モジュールジェネレーターなど電動パワトレインの基幹部品への成長期待が高い。他にもバッテリー監視モニターや空調ヒートポンプなど多くのxEV関連技術を有する。21.3期の地域セグメント別売上収益構成比は日本46%、北米20%、欧州10%、アジア23%、その他1%。成長目標として26.3期に売上収益7兆円、営業利益率10%を掲げる。



今期は増収効果と合理化効果で大幅増益計画

22.3期の会社計画は売上収益が5兆4,600億円、前期比11%増、営業利益が4,130億円、同166%増。前提為替レートは、ドル105円、ユーロ125円。売上高はコロナの影響からの順調な回復や、電動化やADASの拡販、装着率上昇により増加を見込む。引き続き出張減などで経費を抑制し、前期比増となる労務費・償却費を合理化効果でカバーする。電子部品の需給ひっ迫、物流費増加等の外部特殊要因はあるものの、これを吸収する。設備投資は3,950億円、同6%増を計画。今後は3,500億円程度に抑制する。環境・安心分野において国内生産再編や北米・中国増産対応といった投資を強化、案件を精査し、規律をもってコントロールする。研究開発費は4,950億円、同1%増を計画。CASE（コネクテッド、自動運転、シェアリング/サービス、電動化）領域の研究開発をより加速する。ソフト開発の効率を上げ、中期的には4,500億円程度をめどとする。

今期は品質関連費用の減少も増益に寄与する。今後、電動関連製品の売上増が期待できよう。デジタル化の進展で研究開発費や設備投資のコントロールが効率的にできる体制が構築されている点に安心感がある。会社側では営業利益率9%を確保する実力がおおむね付いたとしている。電動製品の収益性も上がり、26.3期の営業利益率10%目標の前倒し達成を目指す。

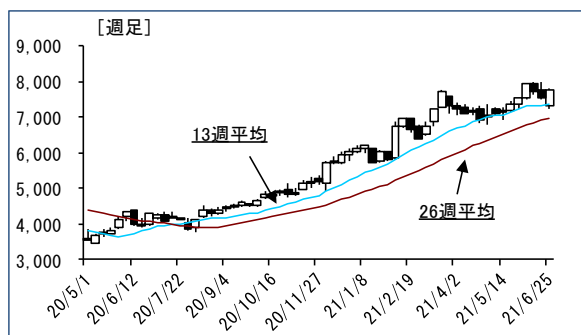
【株価動向・投資判断】

環境規制の強まりで、幅広い電動製品を持つ同社への高い関心が続こう。

<6902 デンソー 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	5,153,476 (▲4)	61,078 (▲81)	89,631 (▲75)	68,099 (▲73)	87.9	140.00
21.3	4,936,725 (▲4)	155,107 (▲154)	193,753 (▲116)	125,055 (▲84)	161.4	140.00
22.3 予	5,460,000 (▲11)	413,000 (▲166)	451,000 (▲133)	317,000 (▲153)	409.1	140.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2021/6/25)	7,779 円
年初来高値 (高値日)	7,970 円 (21/6/7)
同 安値 (安値日)	5,700 円 (21/1/15)
予想 P E R (22.3 予)	19.0 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	5,018.5 円
P B R	1.55 倍
予想配当利回り	1.80 %
(1株当たり配当金年140.00円)	
R O E (21.3)	3.4 %
発行済み株式数	78,794 万株